

敦賀発電所2号炉
敷地の地形，地質・地質構造について
(コメント回答)
補足説明資料1
ボーリング柱状図・コア写真(その1)

令和3年5月19日
日本原子力発電株式会社

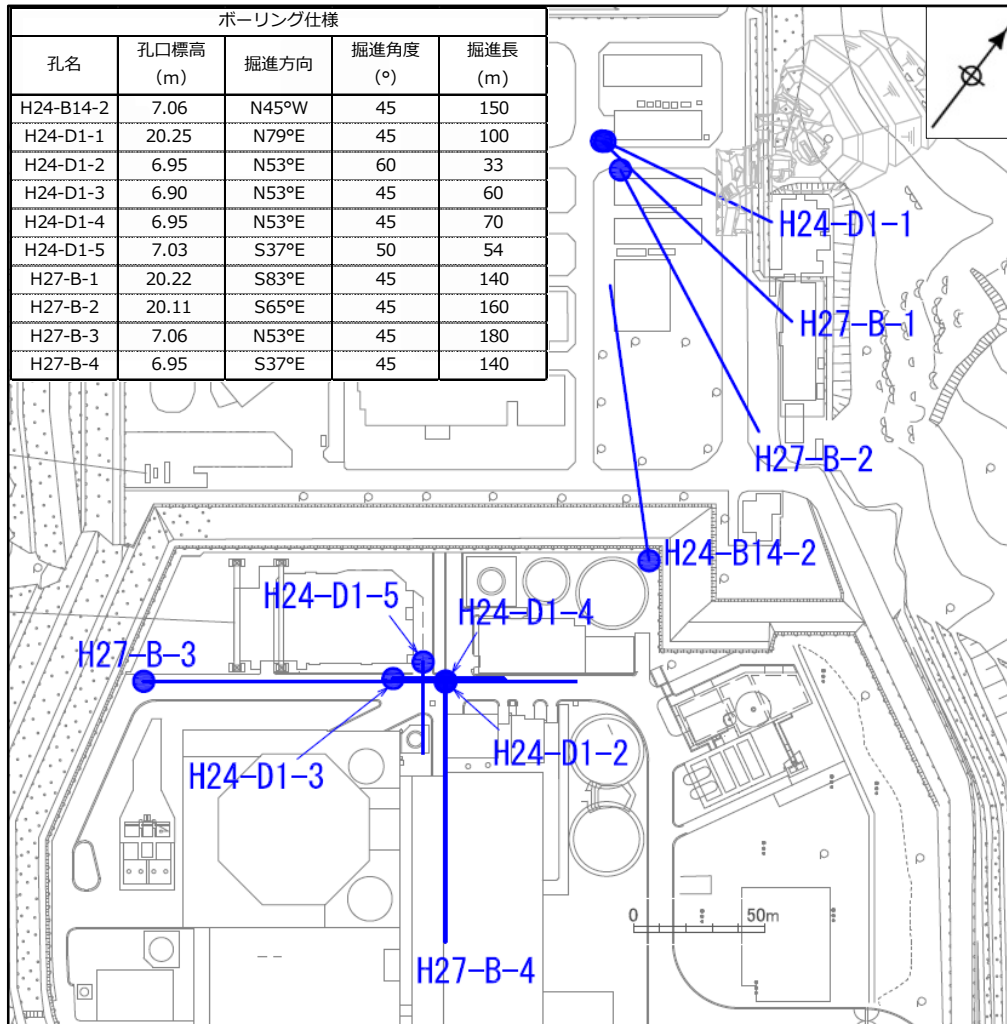
余白

- 本資料は、ボーリング掘削後のボーリングコアの肉眼観察による一次データとして取りまとめたものである。
- ボーリング柱状図を踏まえて、破碎帯の連続性評価等の後段の評価のために用いる肉眼観察による破碎部性状の再観察結果(断層岩区分の評価等)については、別資料である「ボーリングコアの再観察結果」に取りまとめている。
- 本資料では、K断層の連続性評価に関わる10孔について取りまとめており、その他のボーリング孔については、今後提出する。

余白

目次

ボーリング孔名	頁	元データとした柱状図
H24-D1-1	補足1- 11	報告書柱状図 (第865回審査会合 机上配布資料2)
H27-B-1	補足1- 25	コア観察カード (第916回審査会合 机上配布資料1)
H27-B-2	補足1- 51	コア観察カード (第916回審査会合 机上配布資料1)
H24-B14-2	補足1- 81	報告書作成用柱状図 (第916回審査会合 机上配布資料1)
H24-D1-3	補足1-101	報告書柱状図 (第865回審査会合 机上配布資料2)
H24-D1-2	補足1-111	報告書柱状図 (第865回審査会合 机上配布資料2)
H24-D1-4	補足1-117	報告書柱状図 (第865回審査会合 机上配布資料2)
H27-B-3	補足1-127	コア観察カード (第916回審査会合 机上配布資料1)
H27-B-4	補足1-157	コア観察カード (第916回審査会合 机上配布資料1)
H24-D1-5	補足1-175	報告書柱状図 (第865回審査会合 机上配布資料2)



ボーリング調査位置図

余白

- 作成に当たり、元データから誤記の修正及び記載の適正化のみを行った。次頁以降に修正箇所一覧表を示す。
- 修正箇所一覧表に含んでいない統一的な修正箇所を以下に示す。
 - ・「破碎(変質)帯」を「破碎(変質)部」に修正
 - ・破碎帯名の削除
 - ・単位表記の統一「●. ●●～●. ●●m : …」, 「▲～▲°」
 - ・記事欄の記載を深度順に並べ替え
 - ・ノンコア区間の明記
 - ・表記の適正化
 - 「m/m」を「mm」に, 「Gp」を「花崗斑岩」に, 「Ap」を「アプライト」に, 「max」を「最大」に,
 - 「ほゞ」を「ほぼ」に, 「やゝ」を「やや」に, 「巾」を「幅」に修正
 - ・誤字脱字の修正
- 元データからの修正箇所については、柱状図に黄枠を付けて示している。

(注)修正箇所一覧表について

- ・「修正前」及び「修正後」欄では、対象となる記事の修正箇所のみを記載している。
【 】内の記載は、修正前後の説明に関わる記載である。
- ・「修正について記載している資料」欄は、これまでの審査会合で当該修正について説明している資料を示しており、これまでの審査会合で示していない修正箇所については「-」を記載している。

修正箇所一覧表

No.	孔名	元データ	項目 (欄名)	修正前	修正後	修正について記載している資料		
						回数	資料	頁
1	H27-B-1	コア観察カード 12～16m	記事	12.10～12.50m	12.10～12.49m	第916回	資料1-2-1	補足1-6-6
2	H27-B-1	コア観察カード 40～45m	記事	42.41～41.43m	42.41～42.43m			—
3	H27-B-1	コア観察カード 40～45m	記事	44.66～44.68m: Hc-1 55°で上端直線的, 下端は一部で波打って連続。	44.66～44.68m: Hc-1 65°で上端直線的, 下端は一部で波打って連続。			—
4	H27-B-1	コア観察カード 55～60m	記事	58.77～59.82m: D 【中略】 29.60～29.65m間に3本のほぼ平行な割れ目が55°前後で分布, 砂や粘土薄層(厚0.5～1m/m)はさむ。	58.77～59.82m: D 【中略】 59.60～59.65m: 3本のほぼ平行な割れ目が55°前後で分布, 砂や粘土薄層(厚0.5～1mm)はさむ。			—
5	H27-B-1	コア観察カード 115～120m	記事	118.10～118.63m, 割れ目の一部は軽微なマンガン鉱染を受ける。 116.26m以深では上位よりも更に割れ目ぞいの砂状化が進んでいる。	118.10～118.63m: 割れ目の一部は軽微なマンガン鉱染を受ける。 118.26m以深では上位よりも更に割れ目ぞいの砂状化が進んでいる。			—
6	H27-B-1	コア観察カード 140～144m	記事	139.95～140.03m: CL 硬さ「C」岩片主体。 140.03～141.27m: CM 【中略】 (孔底)	139.95～140.00m: CL 硬さ「C」岩片主体。 【余掘り区間の削除】			—
7	H27-B-2	コア観察カード 0～4m	色調	0.00～1.00m 【空欄】	0.00～0.70m 【空欄】			—
8	H27-B-2	コア観察カード 0～4, 4～8m	色調	1.00～4.10m 10YR4/2灰黄褐	0.70～4.10m 灰黄褐			—
9	H27-B-2	コア観察カード 10～15m	記事	14.91m 幅4mmで傾斜15°の石英脈が認められる。	13.91m: 幅4mmで傾斜15°の石英脈が認められる。			—
10	H27-B-2	コア観察カード 25～30m	記事	25.31m 20° 割れ目ぞいにφ0.5m/m～1m/mと微細な雲母(セリサイト?)が晶出している。	25.41m: 20° 割れ目ぞいにφ0.5～1mmと微細な雲母(セリサイト?)が晶出している。			—
11	H27-B-2	コア観察カード 45～50m	記事	47.90～47.06m	46.90～47.06m			—
12	H27-B-2	コア観察カード 45～50m	記事	47.50～48.80m	47.50～48.08m 【コア観察カードの×印記載関係箇所】			—
13	H27-B-2	コア観察カード 45～50m	記事	48.12～48.16m, 上端38°, 下端20°の割れ目に囲まれ締った砂状化を呈する。 48.40～48.49mも上記同様に締った砂状化を呈する。 48.49～48.88m, 60～70° 割れ目主体。割れ目に砂や粘土の挟在物が分布する。(これら割れ目は主せん断面と同方向に近い)	48.12～48.51m: 60～70° 割れ目主体。割れ目に砂や粘土の挟在物が分布する(これら割れ目は主せん断面と同方向に近い)。 48.51～48.60m: 締った砂状化を呈する。 48.84～48.88m: 上端20°, 下端38°の割れ目に囲まれ締った砂状化を呈する。 【コア観察カードの×印記載関係箇所】			—
14	H27-B-2	コア観察カード 45～50m	記事	●48.88～48.92m: 破砕帯(主せん断面48.88m) 48.88m: Hc-2 【中略】 48.88～48.92m: Hb 上端56°, 下端53°でいずれも直線的に連続。φ1～3m/m石英粒, φ3～5m/m硬さ「D」岩片を20～30%含む半固結状の「礫質粘土状」呈する。下部にマンガン鉱染。色調は灰黄褐(10YR4/2)～黒褐色(10YR3/1・下部のみ)。厚さ20m/m。	●48.08～48.12m: 破砕部(主せん断面48.12m) 48.08～48.12m: Hb 上端53°, 下端56°でいずれも直線的に連続。φ1～3mm石英粒, φ3～5mm硬さ「D」岩片を20～30%含む半固結状の「礫質粘土状」呈する。上部部にマンガン鉱染。色調は灰黄褐(10YR4/2)～黒褐色(10YR3/1・上部のみ)。厚さ20mm。 48.12m: Hc-2 【中略】 【コア観察カードの×印記載関係箇所】	第916回	資料1-2-1	補足1-7-19
15	H27-B-2	コア観察カード 45～50m	記事	48.92～52.42m	48.12～52.42m 【コア観察カードの×印記載関係箇所】			—
16	H27-B-2	コア観察カード 65～70m	記事	64.63～63.73m	64.68～64.73m			—
17	H27-B-2	コア観察カード 65～70m	記事	65.36～68.27m	65.36～68.05m 【コア観察カードの×印記載関係箇所】			—
18	H27-B-2	コア観察カード 65～70m	記事	68.01m以深は割れ目挟在物は殆んど分布しない。	【削除】 【コア観察カードの×印記載関係箇所】			—
19	H27-B-2	コア観察カード 65～70m	記事	●68.27～68.34m: 破砕帯(主せん断面68.27m) 68.27m: Hc-1 【中略】 68.27～68.34m: Hj 【中略】	●68.05～68.12m: 破砕部(主せん断面68.05m) 【第865回審査会合資料2-2及び第916回審査会合資料1-2-1の深度68.02～68.06mは誤り】 68.05m: Hc-1 【中略】 68.05～68.12m: Hj 【中略】 【コア観察カードの×印記載関係箇所】			—
20	H27-B-2	コア観察カード 65～70m	記事	68.34～69.69m	68.12～69.69m 【コア観察カードの×印記載関係箇所】			—
21	H27-B-2	コア観察カード 65～70m	記事	68.34～68.38m	68.12～68.16m 【コア観察カードの×印記載関係箇所】			—
22	H27-B-2	コア観察カード 70～75m	記事	72.48m～74.57m	72.48～72.57m			—
23	H27-B-2	コア観察カード 70～75m	記事	74.57～73.16m	72.57～73.16m			—
24	H27-B-2	コア観察カード 85～90m	記事	87.47～84.90m	87.47～87.90m			—
25	H27-B-2	コア観察カード 95～100m	記事	98.48～101.31m	98.48～101.32m			—
26	H27-B-2	コア観察カード 100～105m	記事	104.65～107.15m: CM 104.14～104.19m間を除き, 硬質で挟在物は殆んど分布しない。 104.14～104.19m 【中略】	104.65～107.15m: CM 105.14～105.19m間を除き, 硬質で挟在物は殆んど分布しない。 105.14～105.19m 【中略】			—
27	H27-B-2	コア観察カード 105～110m	記事	107.68～107.73m	106.68～106.73m			—
28	H27-B-2	コア観察カード 105～110m	記事	107.60～115.99m	107.62～115.99m			—
29	H27-B-2	コア観察カード 120～125m	記事	122.97～133.41m	122.97～123.41m			—
30	H27-B-2	コア観察カード 120～125m	記事	133.41～125.38m	123.41～125.38m	第916回	資料1-2-1	補足1-7-45
31	H27-B-2	コア観察カード 130～135m	記事	133.49～133.76m	133.49～133.75m			—
32	H27-B-2	コア観察カード 135～140m	記事	134.23～134.77m: CL 粗粒玄武岩(ドレライト)下盤側貫入境界直下部である。割れ目はやや多いが劣化は伴わない。 134.23～134.33m: DoとGPが混在した岩相を呈する。	134.23～134.77m: CL アブライト下盤側貫入境界直下部である。割れ目はやや多いが劣化は伴わない。 134.23～134.33m: アブライトと花崗斑岩が混在した岩相を呈する。	第916回	資料1-2-1	補足1-7-50
33	H27-B-2	コア観察カード 145～150m	記事	149.19～149.67m: D 【中略】 下端の149.69mは40°厚さ1m/m暗緑灰色の砂状～シルト状で緑泥石脈はさむ。	149.19～149.67m: D 【中略】 下端の149.67mは40°, 厚さ1mm暗緑灰色の砂状～シルト状で緑泥石脈はさむ。			—
34	H27-B-2	コア観察カード 155～160m	記事	155.00～162.00m(孔底)	155.00～160.00m 【余掘り区間の削除】			—
35	H27-B-2	コア観察カード 160～162m	記事	160.00～161.68m 【中略】 (孔底)	【余掘り区間の削除】	第916回	資料1-2-1	補足1-7-58

No.	孔名	元データ	項目 (欄名)	修正前	修正後	修正について記載している資料		
						回数	資料	頁
36	H24-B14-2	報告書作成用 柱状図	柱状図	47.37～47.40mの破砕部の模様の修正				—
37	H24-B14-2	報告書作成用 柱状図	柱状図	60.85～61.12mの破砕部の模様の修正				—
38	H24-B14-2	報告書作成用 柱状図	柱状図	101.47～101.52mの破砕部の模様の修正				—
39	H24-D1-3	H24報告書 柱状図	記事	40.87～44.01m: 傾斜40～50° の割れ目がほぼ平行に3～10mm間隔で分布する。	40.87～44.01m: 傾斜40～50° の割れ目がほぼ平行に3～10cm間隔で分布する。			—
40	H24-D1-4	H24報告書 柱状図	柱状図	61.47～61.52mの破砕部の模様の修正				—
41	H27-B-3	コア観察カード 60～65m	記事	62.23～64.25m	62.23～64.52m			—
42	H27-B-3	コア観察カード 70～75m	記事	71.72～72.76m	71.72～72.65m			—
43	H27-B-3	コア観察カード 90～95m	記事	91.54～93.05m	91.54～93.25m			—
44	H27-B-3	コア観察カード 90～95m	記事	93.05～93.66m	93.25～93.66m			—
45	H27-B-3	コア観察カード 155～160m	記事	156.77～156.80m	155.77～155.80m			—
46	H27-B-3	コア観察カード 170～175m	記事	173.66～176.73m	173.66～173.73m			—
47	H27-B-3	コア観察カード 175～180m	記事	175.71～176.78m	176.50～176.78m			—
48	H27-B-3	コア観察カード 175～180m	記事	175.59～175.62m	176.59～176.62m			—
49	H27-B-4	コア観察カード 20～25m	記事	20.56～20.55m	20.55～20.65m	第916回	資料1-2-1	補足1-9-10
50	H27-B-4	コア観察カード 40～45m	記事	43.80～43.21m	43.80～44.21m			—
51	H27-B-4	コア観察カード 50～55m	記事	51.90m	52.90m			—
52	H27-B-4	コア観察カード 50～55m	記事	52.48～52.44m	52.38～52.44m			—
53	H27-B-4	コア観察カード 60～65m	記事	63.90～63.30	63.90～64.30m	第916回	資料1-2-1	補足1-9-18
54	H27-B-4	コア観察カード 65～70m	記事	67.28～67.78m	67.28～67.75m	第916回	資料1-2-1	補足1-9-19
55	H27-B-4	コア観察カード 80～85m	記事	84.09～84.77m 【中略】 特に84.39～85.58. 間は劣化が進み脆弱。	84.09～84.77m 【中略】 特に84.39～84.58m間は劣化が進み脆弱。			—
56	H27-B-4	コア観察カード 95～100m	記事	98.02～98.27m	98.03～98.27m			—
57	H27-B-4	コア観察カード 140～144m	記事	140.00～140.36m 40～50° のほぼ平行した割れ目が卓越する 【中略】 143.65m～ 堅硬な柱状コア	【余掘り区間の削除】	第916回	資料1-2-1	補足1-9-34

■柱状図で用いている記号の凡例を以下に示す。

・岩級区分

割れ目の状態	コアの形状	コアの硬さ				
		A _g	B _g	C _g	D _g	E _g
a _g	I _g	B'	-	-	-	-
	II _g	B'	C _H '	-	-	-
	III _g	-	C _H '	-	-	-
	IV _g	-	-	-	-	-
	V _g	-	-	-	-	-
	VI _g	-	-	-	-	-
b _g	I _g	B'	B'	C _M '	C _L '	-
	II _g	C _H '	C _H '	C _M '	C _L '	-
	III _g	C _H '	C _H '	C _M '	C _L '	-
	IV _g	-	C _M '	C _M '	C _L '	-
	V _g	-	C _L '	C _L '	C _L '	-
	VI _g	-	-	-	-	-
c _g	I _g	-	C _H '	C _M '	C _L '	D'
	II _g	-	C _M '	C _M '	C _L '	D'
	III _g	-	C _M '	C _M '	C _L '	D'
	IV _g	-	C _M '	C _L '	C _L '	D'
	V _g	-	C _L '	C _L '	C _L '	D'
	VI _g	-	-	-	D'	D'
d _g	I _g	-	-	-	-	-
	II _g	-	-	-	-	-
	III _g	-	-	-	-	-
	IV _g	-	-	-	-	-
	V _g	-	-	-	-	-
	VI _g	-	-	-	D'	D'

・コアの硬さ

A _g	極めて硬質。ハンマーで澄んだ金属音がする。
B _g	硬質。ハンマーで金属音がする。
C _g	中硬質。ハンマーで多少濁った音がする。
D _g	軟質。ハンマーで濁音がする。
E _g	極めて軟質。ハンマーで著しく濁った音がする。

・コアの形状

I _g	50cm以上の長柱状
II _g	20cm以上50cm未満の長柱状
III _g	10cm以上20cm未満の柱状
IV _g	3cm以上10cm未満の岩片状～短柱状
V _g	1cm以上3cm未満の岩片状
VI _g	1cm未満の土砂状



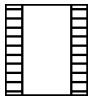

・割れ目の状態

a _g	密着，新鮮
b _g	酸化鉄付着
c _g	細粒物質を挟む。
d _g	割れ目として認識できない。

・風化

γ	弱風化している。有色鉱物の酸化汚染がある。長石の部分的な変質(白色化)がある。
---	---

・破碎度区分

区分	模様	詳細
Hc-1		粘土状部。 粘土及びシルトを主体とし，少量の砂及び礫を伴う。粘土化が進み全体に軟質化している。
Hc-2		礫混じり粘土状部。 粘土及びシルトの基質中に礫状ないしレンズ状の岩片を含む。基質及び礫は粘土化が進み軟質化している。
Hb		礫質粘土状部。 礫を多く含み，基質は粘土，シルト及び砂からなる。基質は粘土化が進み軟質化しているが，礫は比較的新鮮で硬い。
Hj		粘土混じり礫状部。 粘土及びシルトを挟む割れ目が発達し，全体に脆い。岩片は比較的新鮮で硬いものから，やや粘土化が進み指圧で砂状化するものまである。網目状の粘土細脈が発達することがある。

H24-D1-1

余白

柱状図(0.00m~20.00m)

H24-D1-1

孔 口 標 高	T.P.	20.25m	掘 削 長	100.00m
---------	------	--------	-------	---------

標 尺 m	標 高 m	深 度 m	柱 状 図	岩 種 区 分	色 調	岩 級 区 分	コ ア 採 取 率 (%)	最 大 コ ア 長 (cm)	R Q D (%)	コ ア 採 取 率 (%)		記 事
										最 大 コ ア 長 (cm)	採 取 率 (%)	
												0.00~4.33m: 埋土 0.00~3.00m: 中砂 均質な中砂。径2~3mmの石英粒が点在する。
							100					1.70~2.00m: 径5~10mm, 最大30mmの花崗斑岩岩片を多く含む。
							100					3.00~4.00m: 粗砂 径2~5mm, 最大10mmの花崗斑岩岩片が混じる。
							100					4.00~4.33m: 砂礫 径5~30mmの花崗斑岩の硬質礫を含む。下記の第四系砂礫層との境界は不明瞭。
		17.19	4.33	砂礫			100					4.33~12.20m: 砂, 砂礫主体(③層)
		16.68	5.05	砂			100					4.33~5.05m: 砂礫 礫は径2~80mmの垂円~亜角礫。基質は中~粗砂。礫率30~40%程度。
		16.40	5.45	砂	にぶい 黄橙		100					5.05~5.45m: 粗砂 径1~3mmの石英を多く含む。
		15.77	6.33	砂礫	明 褐 灰		100					5.45~6.33m: 礫 径30~280mmの垂角礫からなる。
		15.59	6.59	砂礫	にぶい 黄橙 緑 灰		100					6.33~6.59m: 砂礫 礫は径2~80mmの垂円~亜角礫。基質は中~粗砂。礫率30%前後。
		15.29	6.79	シルト混じり砂			100					6.59~6.72m: シルト混じり細砂 未分解の有機物を含む。
							100					6.72~8.84m: 中砂 均質。石英や花崗斑岩礫が点在。上端部に粘土分が多い。
		13.55	9.48	砂	にぶい 黄橙		100					8.84~9.48m: 粗砂
							100					9.48~10.25m: 砂礫 礫は径2~70mmの石英, 亜円~亜角礫。基質は中~粗砂。礫率30%前後
		13.09	10.25	砂礫	にぶい 黄橙		100					10.25~11.00m: 中砂 不均質に粘土分や有機物を含む。径2~20mの礫も少量含む。
		12.47	11.00	砂	にぶい 黄橙		100					11.00~12.20m: 砂礫 礫は径2~160mmの垂円~亜角礫。基質は中~粗砂。礫率40~50%程度
		11.62	12.20	砂礫	にぶい 黄橙		100					12.20~100.00m: 花崗斑岩(Gp) 斑晶は径1~3mmの石英, 長石。 12.20~18.10m: 割れ目に沿って砂状化やマンガン付着が認められる。
						D'	100	7	0			
						D'	100	4	0			
						D'	100	8	0			
						D'	100	6	0			
						CL'	100	9	0			
						D'	100	5	0			
						D'	100	4	0			
						D'	100	3	0			
												19.88~20.25m: 割れ目は消滅し, 径5~10mの粘土化岩片が主体。

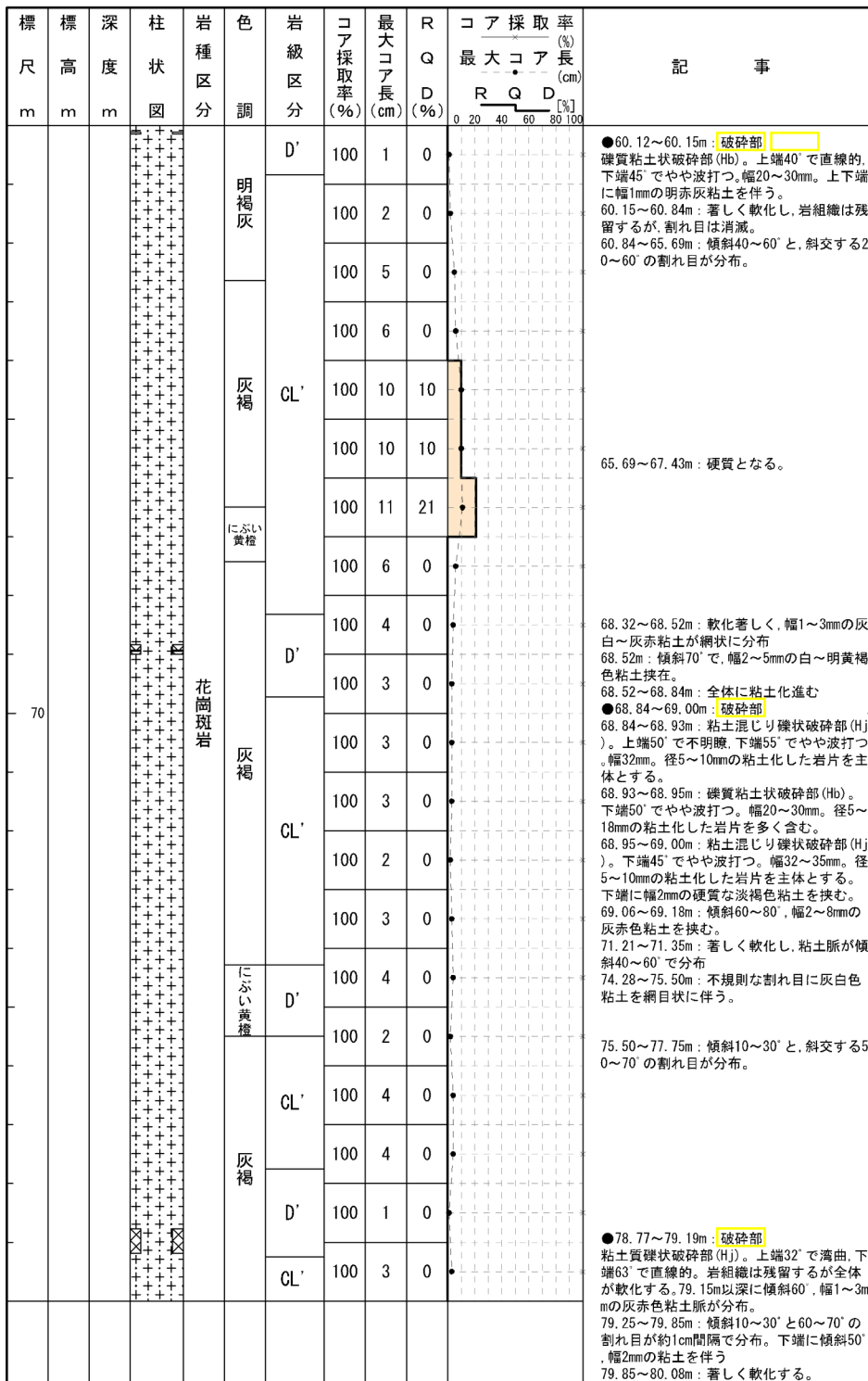
柱状図(20.00m~40.00m)

標尺 m	標高 m	深度 m	柱状 図	岩種 区分	色 調	岩級 区分	コア 採取 率 (%)	最大 コア 長 (cm)	R Q D (%)	コア採取率 (%)			記 事				
										最大 コア 長 (cm)	R Q D (%)	R Q D (%)					
			+	花崗斑岩	にぶい 黄緑	D'	100	6	0				20.09m付近、幅5~20mmで淡緑色化。 20.16~20.19m：粘土化した岩片を多く含む。 21.04~24.53m：割れ目は傾斜10~35°が主体で、60~80°の割れ目が斜交する。 24.53~30.53m：割れ目は傾斜50~60°が主体。一部で10~50°の割れ目に60~70°の割れ目が交差する。 25.12m：傾斜40°で褐色粘土挟在。周縁に黄鉄鉱が付着。 26.50~27.04m：軟化著しい。一部に粘土脈を伴う。 27.21m：傾斜34°の割れ目に沿って幅1~3mmが砂状化する。 27.81~27.90m：幅0.5~2mmの白色粘土を挟む。 30.53~31.94m：傾斜30~50°の中角度割れ目が主体。 32.24m：傾斜65°、幅8~20mmの開口割れ目。砂と岩細片が充填する。 32.38~34.03m：傾斜10~30°の割れ目が主体。幅30~100mmで砂状~細片化部を互層状に含む。 34.03~34.95m：上下位に比べ硬質で傾斜10~30°の割れ目が主体。 35.96~38.81m：傾斜10~40°と、斜交する50~70°の割れ目が主体。 38.52m：傾斜42°で、幅3~8mmで明褐色粘土を挟む。 39.24~41.18m：傾斜20~40°と、交差する60~80°の割れ目が分布。				
								明褐灰	CL'	100	7	0					
										100	12	12					
										100	11	11					
										100	6	0					
										100	5	0					
										100	7	0					
								にぶい 褐	CL'	100	2	0					
										100	16	16					
							明褐灰										
							にぶい 褐	D'	100	4	0						
										100	17	17					
							明褐灰		100	6	0						
										100	22	22					
										100	9	0					
										100	9	0					
							にぶい 褐 灰 白	CL'	100	9	0						
										100	5	0					
							明褐灰										
				明褐灰		100	4	0									
							100	10	10								
							100	4	0								
				明褐灰	D'	100	4	0									
							100	5	0								

柱状図(40.00m~60.00m)

標尺 m	標高 m	深度 m	柱状 図	岩種 区分	色調	岩級 区分	コア 採取 率 (%)	最大 コア 長 (cm)	R Q D (%)	コア採取率 (%) 最大コア長 (cm)	R Q D (%)	記事	
													0
50				花崗斑岩	明褐灰	CL'	100	15	27	●			41.45~42.23m: 傾斜30~40°の割れ目主体で、割れ目沿いに砂状化する。
							100	8	0	●			42.23~42.50m: 軟化著しく、白色粘土脈が網状に分布する。
							100	8	0	●			42.27m: 傾斜42°で、幅5~8mmの橙色粘土を挟む。
							100	3	0	●			42.50~44.56m: 傾斜10~40°の割れ目主体。一部に幅1~2mmの白~橙色粘土を挟む。
							100	2	0	●			
							100	1	0	●			
							100	1	0	●			●45.91~48.28m: 破砕部
							100	1	0	●			45.91~45.94m: 礫質粘土状破砕部(Hb)。上端52'、下端42'で両端とも直線的。幅30mm。
							100	1	0	●			45.94~48.18m: 粘土混り礫状破砕部(Hj)。下端34'で直線的。網目状に白色粘土が分布。
							100	2	0	●			46.41~46.45m: 砂混り粘土状破砕部(Hc-2)。上端15'で直線的。下端20'で波打つ。幅25~30mm、浅黄橙色。
							100	2	0	●			47.64~47.65m: 砂混り粘土状破砕部(Hc-2)。上端20'で波打つ。下端10'で直線的。幅10~15mm、明赤灰色。
							100	5	0	●			48.18~48.26m: 礫質粘土状破砕部(Hb)。上端34'、下端68'で両端とも直線的。幅40~70mm。
							100	4	0	●			48.26~48.28m: 砂混り粘土状破砕部(Hc-2)。下端68'で直線的。幅6~8mm。
							100	4	0	●			●49.20~49.91m: 破砕部
							100	2	0	●			49.20~49.91m: 粘土混り礫状破砕部(Hj)。上端不明瞭、下端30'で不明瞭。径10~30mmの岩片間に網状に白色粘土が分布。
							100	2	0	●			49.82~49.84m: 粘土状破砕部(Hc-1)。上端44'で直線的、下端43'でやや波打つ。幅10mm、明黄褐色。
							100	4	0	●			49.91~50.77m: 径5~50mmの軟化した岩片が主体で、岩片間に白色粘土を伴う。
							100	4	0	●			51.69~52.20m: 傾斜50~60°と、斜交する30~40°の割れ目主体。
100	4	0	●			●53.77~54.54m: 破砕部							
100	4	0	●			53.77~53.80m: 粘土状破砕部(Hc-2)。上下端65'で直線的。幅15mm、灰褐色。							
100	4	0	●			53.80~53.90m: 粘土混り礫状破砕部(Hj)。下端20'で波打つ。							
100	4	0	●			53.90~53.93m: 礫混り粘土状破砕部(Hc-2)。下端25'で直線的。幅25~30mm、浅黄橙色。							
100	2	0	●			53.93~54.06m: 礫質粘土状破砕部(Hb)。下端60'で直線的。							
100	2	0	●			54.06~54.07m: 粘土状破砕部(Hc-1)。下端64'で大きく波打つ。幅5~15mmと膨縮。浅黄橙色。							
100	1	0	●			54.07~54.45m: 粘土混り礫状破砕部(Hj)。下端46'で直線的。全体に粘土化が進む。下端に幅1~2mmの白色粘土を伴う。							
100	4	0	●			54.45~54.54m: 礫質粘土状破砕部(Hb)。下端55'で直線的。							
				明褐灰			54.54~57.13m: 全体に珪質で、石英斑晶が大きい。一部を除き硬質。						
				明褐灰			●58.96~59.30m: 破砕部						
							58.96~59.05m: 粘土混り礫状破砕部(Hj)。上端50'で不明瞭、下端45'で直線的。幅63mm。						
							59.05~59.16m: 礫質粘土状破砕部(Hb)。下端40'でやや波打つ。幅80mm。						
							59.16~59.18m: 粘土状破砕部(Hc-1)。下端35'で直線的。幅5~14mm。灰赤~灰白色。						
							59.18~59.30m: 礫質粘土状破砕部(Hb)。下端50'でやや波打つ。下端に灰赤色粘土を伴う。						
							59.30~59.98m: 傾斜70~80°と、斜交する20~30°の割れ目が分布。						

柱状図(60.00m~80.00m)



柱状図(80.00m~100.00m)

標尺 m	標高 m	深度 m	柱状 図	岩種 区分	色 調	岩級 区分	コア 採取 率 (%)	最大 コア 長 (cm)	R Q D (%)	コア採取率 (%) 最大コア長 (cm) R Q D	記事
				灰褐		100	3	0			<p>80.08~81.00m: 互いに交差する傾斜40~60°の割れ目が多く、コアは径5~20mmの岩片状を呈する。</p> <p>●81.20~81.42m: 破砕部 81.20~81.30m: 礫質粘土状破砕部(Hb)。上端40°で一部湾曲、下端35°で直線的。幅50~60mm。 81.30m: 粘土状破砕部(Hc-1)。傾斜35°。幅2~4mm。灰赤色。 81.30~81.42m: 礫質粘土状破砕部(Hb)。下端60°でやや湾曲し灰赤色粘土を伴う。 81.42~87.14m: 傾斜30~70°と、斜交する30~70°の割れ目が分布。一部で硬くなり短柱状を呈する。</p> <p>87.14~88.35m: 径5~40mmに角礫化し、岩片間に白色粘土脈が分布。</p> <p>●89.91~89.95m: 破砕部 礫混り粘土状破砕部(Hc-2)。上端50°、下端45°で両端とも直線的。幅15~20mm。 ●90.26~90.84m: 破砕部 90.26~90.31m: 粘土混り礫状破砕部(Hj)。上端50°で波打ち、下端70°で直線的。幅15~20mm。幅1~2mmの粘土を伴う。 90.31~90.37m: 礫質粘土状破砕部(Hb)。下端70°で直線的。幅20~35mm 90.37~90.66m: 粘土混り礫状破砕部(Hj)。下端75°で直線的。径30mmまでの岩片間に幅0.5~1mmの白~灰赤色粘土を伴う。 90.66m: 粘土状破砕部(Hc-1)。傾斜75°で直線的。幅2mm。赤灰色。 90.66~90.72m: 礫質粘土状破砕部(Hb)。下端60°で波打つ。幅6~20mm。 90.72~90.84m: 粘土混り礫状破砕部(Hj)。下端50°。粘土化した岩片と基質からなる。 ●91.26~91.52m: 破砕部 91.26~91.31m: 礫質粘土状破砕部(Hb)。上端60°で直線的、下端63°で湾曲する。幅20~40mm。 91.31~91.33m: 礫混り粘土状破砕部(Hc-1)。下端63°。幅8~15mm。赤灰色。 91.33~91.52m: 粘土混り礫状破砕部(Hj)。下端30°で不明瞭。白~灰赤色粘土を伴う。 ●93.12~93.24m: 破砕部 93.12~93.20m: 礫質粘土状破砕部(Hb)。上端65°、下端30°で両端とも直線的。幅50~100mmと膨縮する。 93.20m: 粘土状破砕部(Hc-1)。傾斜30°で直線的。幅2mm。灰赤色。 93.20~93.24m: 礫質粘土状破砕部(Hb)。下端55°で直線的。幅30mm。 93.24~95.23m: 著しく変質し、岩片間を灰白色粘土が充填する。 94.76m: 55°、95.07m: 傾斜65°の割れ目に幅1~2mmの灰白色粘土脈を伴う。 95.23~99.46m: 岩片状を呈し、割れ目は傾斜20~50°が主体で、交差する30~50°のものが分布する。 98.37~98.44m: 著しく軟化する。下端に幅2~5mmの赤灰色粘土を伴う。 99.46~99.68m: 傾斜50~60°の割れ目が平行に分布。割れ目沿いに砂状化し、粘土脈を挟む。 ●99.68~99.71m: 破砕部 99.68~99.69m: 礫混り粘土状破砕部(Hc-2)。上端65°、下端63°でともに直線的。幅8mm。灰赤色。 99.69~99.71m: 礫質粘土状破砕部(Hb)。下端65°で直線的。幅12mm。</p>
				にぶい黄橙		100	5	0			
				灰褐	CL'	100	5	0			
				灰褐	CL'	100	6	0			
				灰褐	CL'	100	6	0			
				灰褐	CL'	100	8	0			
				灰褐	CL'	100	9	0			
				にぶい黄橙	D'	100	11	11			
				灰褐	CL'	100	6	0			
				灰	CL'	100	4	0			
				灰	D'	100	4	0			
				灰褐	D'	100	3	0			
				褐灰	CL'	100	3	0			
				灰褐	D'	100	1	0			
				灰褐	CL'	100	4	0			
				灰褐	D'	100	3	0			
				灰褐	CL'	100	5	0			
				灰褐	CL'	100	5	0			
				灰黄褐	CL'	100	3	0			
				灰黄褐	CL'	100	4	0			
			灰褐	CL'	100	5	0				

コア写真(0.00m～18.00m)



コア写真(18.00m～36.00m)



コア写真(36.00m～54.00m)



コア写真(54.00m~72.00m)



コア写真(72.00m~90.00m)



コア写真(90.00m~100.00m)



余白

H27-B-1

余白

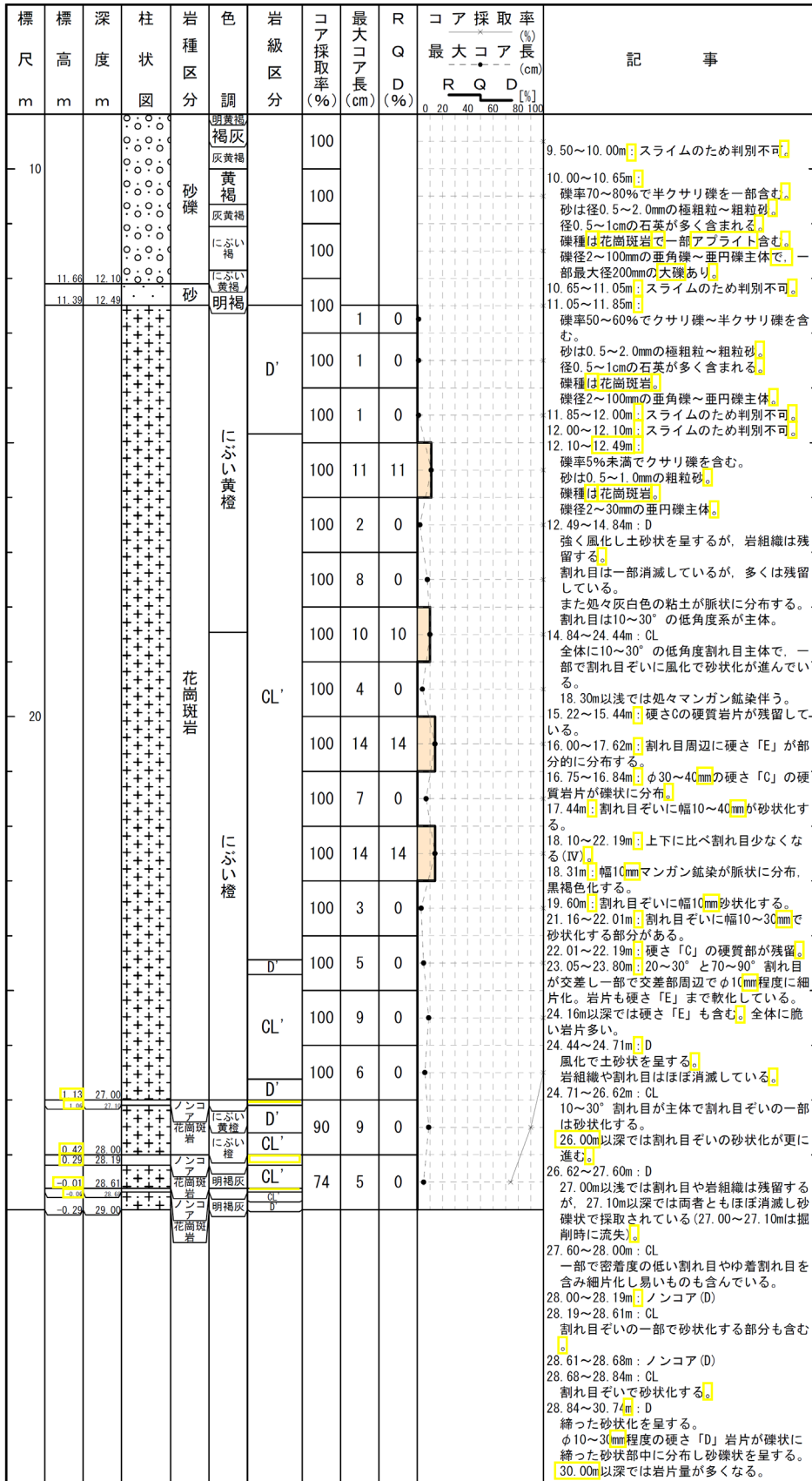
柱状図(0.00m~9.00m)

H27-B-1

孔 口 標 高	T. P.	20.22m	掘 削 長	140.00m
---------	-------	--------	-------	---------

標 尺 m	標 高 m	深 度 m	柱 状 図	岩 種 区 分	色 調	岩 級 区 分	コ ア 採 取 率 (%)	最 大 コ ア 長 (cm)	R Q D (%)	コ ア 採 取 率 (%) 最大 コ ア 長 (cm) R Q D [%]	記 事
				盛土	にぶい黄褐		100				0.00~0.30m: 細~中粒砂主体の盛土。 0.30~0.70m: 径1.0~3.0cmの礫を含む中粒砂主体の盛土。 0.70~0.90m: 径0.5~1.0cmの礫を含む中粒砂主体の盛土。 0.90~1.80m: 径1.0~4.0cmの礫が主体の盛土。 1.80~2.40m: 径1.0~3.0cmの礫を含む中粒砂主体の盛土。 2.40~3.00m: 径1.0~4.0cmの礫が主体の盛土。 3.00~4.00m: スライムにより判別不可。
		17.32	4.10	砂礫	黄緑		100				4.00~4.10m: スライムにより判別不可。
		17.18	4.30	礫混じり砂	にぶい黄褐		100				4.10~4.30m: 礫率60%の砂礫でくさり礫や半くさり礫を多く含む。 砂は径0.5~1.0mmの粗粒砂。 礫種は花崗斑岩。 礫径は2~30mmの垂角礫主体。
		16.93	4.65	砂礫	灰褐		100				4.30~4.65m: 礫率20~30%で半くさり礫を多く含む。 砂は径0.5~1.0mmの粗粒砂。 4.40~4.50m付近に粘土状の細粒部が認められる。 級化層理が認められる。 礫種は花崗斑岩。 礫径は2~30mmの垂角礫主体。
		15.41	6.80	礫混じり砂	明褐灰		100				4.65~6.60m: 礫率60~80%。 砂は径0.5~2mmの極粗粒砂~粗粒砂。 4.65~5.85m付近は径8mm以上の巨礫が多く含まれる。 5.40~5.60m付近で一部礫に明赤灰(2.5YR7/1)や明褐灰(7.5YR7/1)、極暗赤褐(2.5YR2/3)が認められる。 6.15~6.30m付近は径8mm以上の中礫が著しく減少する。 6.30~6.60m付近は径8mm以上の半くさり礫の中礫が多く含まれる。 礫種は花崗斑岩。 礫径は2~50mmの垂角礫~垂円礫主体。一部最大径200mmの大礫あり。
		15.16	7.15	有機質土	黒緑にぶい黄橙		100				6.60~6.80m: スライムのため判別不可。
		15.08	7.30	礫混じり砂	灰黄褐		100				6.80~7.15m: 礫率20~30%で半くさり礫を多く含む。 砂は径0.5~2.0mmの極粗粒~粗粒砂。 礫種は花崗斑岩。 礫径は2~30mmの垂円礫主体。
		14.14	8.60	砂礫	明黄褐		100				7.15~7.30m: 有機物を多く含む腐植土壌。 7.30~7.55m: 礫率20~30%で半くさり礫を多く含む。 砂は径0.5~2.0mmの極粗粒~粗粒砂。 礫種は花崗斑岩。 礫径は2~30mmの垂円礫主体。 7.55~8.00m: スライムのため判別不可。 8.00~8.60m: スライムのため判別不可。 8.60~9.50m: 礫率30~40%でくさり礫や半くさり礫を多く含む。 砂は径0.5~1.0mmの粗粒砂。 8.75~8.85m付近はスライムのため判別不可。 9.25~9.35m付近に黒色土(土壌)に挟まれた砂層が認められる。 黒色土層。砂層共に55°傾斜し全体の幅は10cm。真幅は黒色土2cm、砂4cm、下2cm。 黒色土層(上下)中に植物片が認められる。 礫種は花崗斑岩。 礫径2~30mmの垂角礫~垂円礫主体。

柱状図(9.00m~29.00m)



柱状図(29.00m~42.00m)

標尺 m	標高 m	深度 m	柱状図	岩種区分	色調	岩級区分	コア採取率(%)	最大コア長(cm)	RQD(%)	コア採取率(%)			記事						
										最大コア長	R	Q		D					
										0	20	40	60	80	100				
		29.00		ノンコア												29.00~29.09m: ノンコア (D)			
	30		+	花崗斑岩	明褐灰	D'	91	3	0							30.17~30.50m: マンガン鉱染伴う。 30.30~30.53m: 石英多く晶出(一部は変質による2次石英と推定される)。 30.74~32.48m: CL 硬さ「D」主体だが部分的に硬さ「E」も含む。 上端側の30.74~31.30m間は風化による黄褐色化が進むが軟化は伴わない。 31.05~31.23m: 熱水変質による粘土化変質、珪化変質が著しく、前者では白色系粘土、後者では石英が脈状~晶洞状に晶出している。また、マンガン鉱染と風化も伴ない全体として黄褐色の濃い色調を呈する。 31.70~32.20m: 割れ目ぞいの砂状化が進み「砂混じり岩片状」を呈する。岩片はφ10~30mm程度の硬さ「D」で残留するが全体にやや上下に比べ脆くなる。 32.48~32.70m: D 岩組織と割れ目はほぼ残留している。 32.70~34.54m: CL 割れ目ぞいに厚さ1~2mm程度で薄く砂状化部をささむ。一部で砂状化が進行する部分もある。白濁化した長石多い。割れ目は10~20°が主体、一部で70~80°割れ目と交差。 33.17m: 15°割れ目が75°割れ目を切っている(変位量10mm, 右ズレ)。 33.40m: 15°割れ目ぞいに厚さ20mm砂状化。 33.76m: 5°割れ目ぞいに厚さ10mm砂状化。 34.00m以深、密着度の低いゆる割れ目多くハンマーの打撃で細片化する。また、割れ目も消滅しかかっている。 34.03m: 40°幅2~3mm石英脈、密着して連続。 ●34.54~34.59m: 破砕部・主せん断面34.59m(11°) 34.54~34.59m: Hj 上端10~40°で大きく湾曲、下端11°で直線的に連続。φ5mm花崗斑岩岩片主体で岩片間は粘土状~砂状で「粘土混じり岩片状」呈する。色調はにぶい黄橙(10YR6/3)。厚さ40~50mm。 34.59m: Ho-2 上下端とも11°で直線的に連続。φ1mm石英粒を10%程度含む。色調は灰黄褐(10YR5/2)。厚さ3~4mm。 34.59~35.37m: CL 細片化し易いゆる割れ目が多い。 35.37~37.15m: D 軟化著しく硬さ「E」主体であるが岩組織や割れ目はほぼ残留している。部分的に硬質岩片を中石的に含む。 36.09~36.26m、36.53~36.62m: 硬さ「C」の硬質部が残留する。 36.70m以深でφ10~30mmの硬さ「D」ないし「C」の岩片が礫状に残留する。 37.15~42.00m: CL 0~30°割れ目主体で、割れ目ぞいの一部で砂状化する部分も含む。 37.80m: 5°割れ目ぞい幅10~20mm砂状化、微細な黄鉄鉱が晶出している。 38.56~38.74m: φ20~30mmの硬さ「C」岩片が残留する。 39.26~39.70m: 硬さ「C」のφ30~50mm岩片が多く残留する。 39.90m: 幅10~20mm、0°で淡緑色部が分布(緑泥石濃集部と推定される)。 40.32~40.77m: 割れ目ぞいの砂状化進む。硬さ「D」ないし「C」の岩片がそのなかに残留し、全体として砂礫状を呈し、上下に比べやや脆くなる。 41.50m: 2°割れ目ぞい幅3mm淡緑色化(緑泥石化)し、φ0.5~1mmの微細な黄鉄鉱が晶出している。 41.95~42.00m: コアチューブ引上時に壊され礫状コア化したもの。硬さは「D」。			
								黄褐にぶい黄橙	CL'	100	3	0							
								明褐灰	D'	100	6	0							
								明褐灰	CL'	100	14	14							
								にぶい黄橙	D'	100	4	0							
								にぶい黄橙	CL'	100	4	0							
								明褐灰	D'	100	4	0							
								明褐灰	D'	100	9	0							
								明褐灰	D'	100	7	0							
								明褐灰	CL'	100	5	0							
								明褐灰	CL'	100	4	0							
								明褐灰	CL'	100	8	0							
								にぶい黄橙	CL'	100	4	0							

柱状図(42.00m~45.00m)

標尺 m	標高 m	深度 m	柱状 図	岩種 区分	色 調	岩級 区分	コア 採取 率 (%)	最大 コア 長 (cm)	R Q D (%)	コア採取率 (%) 最大コア長 (cm) R Q D [%]	記 事
			+	花崗斑岩	に ぶ い 橙 灰 褐 灰 白 灰 褐 に ぶ い 橙	D'	100	2	0		42.00~42.41m : D 一部の割れ目と岩組織は残留している。 42.24~42.28m : 上端15° , 下端18° 割れ目に囲まれ、厚さ3mm軟質・淡黄色粘土化(硬度4)。 幅1mm白色粘土脈も処々に点在する。 ●42.41~42.49m : 破砕部(主せん断面42.43m)
			+				100	2	0		42.41~42.43m : Ho-2 上下端各々63° , 54° で波打って連続。φ1~2mm石英粒はわずが、花崗斑岩岩片を計10%程度含む軟質粘土(ガウジ)。色調はにぶい黄褐(10YR5/3)。厚さ10~15mm。 42.43~42.45m : Hb 上端54° , 下端35° でいずれも波打って連続。φ1~2mm石英粒、φ5~10mm粘土化花崗斑岩岩片を計20~30%含む軟質な硬質粘土状。色調は灰白色(2.5Y8/2)。厚さ5~10mm。 42.45~42.49m : Hj 上端35° , 下端18° でいずれも波打って連続。下端の一部はやや不明瞭。φ5~20mmの岩片からなり、岩片の一部は粘土状~砂状。全体的に「粘土混じり岩片状」呈する。色調はにぶい黄橙(10YR6/3)。厚さ4mm。 42.49~44.24m : D 著しく軟化するが岩組織と割れ目の一部は残留している。 43.45~43.48m : 厚さ25mm・23° の石英脈が硬質で分布。 ●44.24~44.53m : 破砕部(主せん断面44.31m)
			+				100	1	0		44.24~44.31m : Hb 上端、幅1mm灰赤色軟質粘土で5~13° で湾曲して、下端35° で少し湾曲して連続。φ2~3mm石英粒、φ5~10mm(最大25mm)花崗斑岩岩片を30%程度含む半固結状の「硬質粘土」。色調は灰黄(2.5Y7/2)。厚さ45~65mm。 44.31m : Hc-1 上下端とも35° で直線的に連続。φ1mmの石英粒をごくわずが(5%以下)含む軟質な粘土(ガウジ)。色調は灰黄褐色(10YR4/2)。厚さ1~2mm。 44.31~44.53m : Hj 上端35° で直線的に、下端70° で波打って連続。φ5mm前後の粘土化した花崗斑岩岩片と岩片間は白色軟質の脈状~網状粘土脈からなる。粘土混じり岩片状からなる。色調は灰褐(7.5Y6/2)~淡黄(2.5Y8/3)。厚さ140~200mm。 ●44.53~44.83m : 破砕部(主せん断面44.66m)
			+							44.53~44.66m : Hj 上端70° で波打って、下端65° で直線的に連続。φ5~10mm粘土化岩片と岩片間の軟質白色粘土(脈状主体)からなり粘土混じり岩片状を呈する。 色調はにぶい橙(7.5YR7/4)~灰白色(2.5Y8/2)。厚さ55mm。 44.66~44.68m : Hc-1 65° で上端直線的、下端は一部で波打って連続。φ1mm石英粒ごく少量(5%以下)含む軟質粘土(ガウジ)。上下端側に主せん断面と同方向に幅1~2mm、長さ5~10mmの脈状のマンガン鉱染部を伴う。 色調は灰黄褐色(10YR4/2)。厚さ4~5mm。 44.68~44.70m : Hb 上端65° で一部波打って、下端50~70° で湾曲して連続。φ2mm石英粒、φ3~5mm粘土化岩片を計20~30%含む半固結状の硬質粘土状を呈する。色調は明赤灰(2.5Y7/2)~灰白色(5YR8/1)。厚さ10~20mm。 44.70~44.83m : Hj 上端50~70° , 下端75~85° でいずれも湾曲して連続。下端は幅1mm以下の灰黄褐色(10YR4/2)軟質粘土脈。φ5~10mm粘土化岩片と岩片間の脈状~網状白色~淡黄色軟質粘土脈からなり、全体として、粘土混じり岩片状を呈する。色調は灰褐(7.5YR6/2)~淡黄色(2.5Y8/3)。厚さ20~50mm。岩片間の基質部には黒褐色のマンガン鉱染部が点在する。 44.83~45.36m : D	

柱状図(45.00m~49.00m)

標尺 m	標高 m	深度 m	柱状 図	岩種 区分	色調	岩級 区分	コア 採取 率 (%)	最大 コア 長 (cm)	R Q D (%)	コア採取率 (%)		記 事
										最大 コア 長 (cm)	長 (cm)	
				花崗斑岩	にぶい橙 にぶい褐 黄褐色 にぶい黄褐色	D'	100	1	0			●45.36~45.39m : 破砕部(主せん断面45.39m) 45.36~45.39m : Hj 上端やや不明瞭で62°で波打って、下端は65°で直線的に連続。φ5mm前後の細かい岩片からなり、岩片間の一部が粘土化。全体的に「粘土混じり岩片状」を呈する。色調はにぶい橙(7.5YR7/3)。厚さ5~10mm。 45.39m : Hc-2 上下端とも65°で直線的に連続。一部で厚さ1mmの2本のガウジに分枝~取れんする。φ1~2mm石英粒を5~10%含む軟質粘土(ガウジ)。色調は灰褐色(7.5YR6/2)。厚さ2mm。 45.39~46.12m : D 幅1mm前後の軟質な白色粘土脈が多い。 ●46.12~46.17m : 破砕部(主せん断面46.17m) 46.12~46.17m : Hj 上端31°でやや不明瞭ながら直線的に、下端35~70°で大きく湾曲して連続。φ5~10mm粘土化岩片が粘土化基質中に礫状に分布。全体に「粘土質岩片状」を呈する。主せん断面と平行して細かい割れ目や白色粘土細脈「厚さ1mm」が分布。色調は淡黄色(2.5Y8/3)。厚さ35mm。 46.17m : Hc-2 上下端とも35~70°で大きく湾曲して連続。φ1~2mm石英粒、φ3mm粘土化岩片を20~30%含む半固結状の粘土(ガウジ)。色調は黒褐(10YR3/1)。厚さ2~10mm。 46.17~47.40m : D 46.73m : 55°せん断割れ目。幅1mm赤褐色粘土伴う。 ●47.40~47.51m : 破砕部(主せん断面47.40m) 47.40m : Hc-1 上下端とも58°で直線的に連続。φ1mm石英粒を5%程度含むやや軟弱な粘土(ガウジ)。色調は灰褐色(7.5YR5/2)。厚さ1~2mm。 47.40~47.51m : Hb 上端58°、下端55°でいずれも直線的に連続。φ2~3mm石英粒を20~30%含む軟質な「硬質粘土状」を呈する。岩片は認められない。色調は黄褐色(10YR5/6)。厚さ70mm。 47.51~47.80m : D 岩組織と多くの割れ目は消滅せずに残留している。 砂、マンガンなどの挟在物をもつ割れ目が多い。 47.80~48.80m : CL 20~30°割れ目ぞいに著しく軟化した硬さ「E」も処々に分布する。 白色粘土細脈やマンガン鉱染を伴う。 48.80~49.17m : D 著しく軟化するも岩組織と割れ目の一部が残留している。
						D'	100	1	0			
						CL'	100	2	0			
						D'	100	1	0			

柱状図(49.00m~53.00m)

標尺 m	標高 m	深度 m	柱状 図	岩種 区分	色 調	岩級 区分	コア 採取 率 (%)	最大 コア 長 (cm)	R Q D (%)	コア採取率 (%)		記 事
										最大 コア 長 (cm)	最大 コア 長 (cm)	
	50			花崗斑岩	にぶい 黄褐色	D'	100	4	0	0	0	<p>49.06m : 62° のせん断割れ目(sj)が分布。挟在物のない平滑な割れ目。</p> <p>●49.17~49.27m : 破砕部(主せん断面49.20m)</p> <p>49.17~49.20m : Hb 上端25° で波打って、下端30~36° で湾曲して連続。φ2~3mm石英粒、φ5mm粘土化岩片を計20~30%含む軟質な「礫質粘土状」を呈する。色調は灰白(2.5Y8/2)~明黄褐(10YR7/6)。厚さ10~25mm。</p> <p>49.20~49.22m : Hc-2 上端30~36°、下端35~60° でいずれも湾曲して連続。φ1~2mm石英粒を5~10%含む軟質粘土(ガウジ)。色調は明黄褐色(10YR7/6)。厚さ7~15mm。</p> <p>49.22~49.27m : Hj 上端35~60° で湾曲し、下端23° で波打って連続。φ2~4mm石英粒、φ5~10mm岩片(硬さ「D」「C」と岩片間の粘土~砂状部)からなり、全体として「粘土・砂混じり岩片状」を呈する。色調はにぶい黄橙(10YR6/4)。厚さ50mm(コア長)。</p> <p>49.27~49.40m : D 20~30° 割れ目が多く残留するが割れ目ぞいに風化・砂状化が進む。</p> <p>49.40~51.94m : CL 硬さ「C」の岩片が主体で一部に軟化した「D」も含む。30° 前後の割れ目が主体で、一部でこれに直交~斜交する60° 前後の割れ目が分布。</p> <p>51.06m以深では風化と変質は軽微となる。硬さ「B」と堅硬な岩片も混える。</p> <p>51.06~51.94m : 割れ目や密着度が低いゆ着割れ目が多い。ゆ着割れ目も褐色化している。</p> <p>51.24~51.62m : 割れ目挟在物は殆んど分布しない。これ以外では割れ目ぞいに1mm砂状化するものが多い。処々に幅0.5~1mmで密着した石英脈が分布。</p> <p>51.63m : 15° 割れ目ぞい厚さ10mmが砂状化。</p> <p>51.94~52.72m : D 著しく軟化するが岩組織と割れ目は残留している。</p> <p>52.16m : 23° 厚さ30mmの軟質褐色粘土脈、上端にマンガン伴う。</p> <p>52.32~52.50m : 硬さ「D」が主体。</p> <p>●52.72~52.81m : 破砕部(主せん断面52.81m)</p> <p>52.72~52.80m : Hj 上端56° で直線的に、下端14° で波打って連続。φ5~10mm岩片(硬さ「D」主体)と岩片間の幅1~2mm脈状~φ2~5mm斑点状粘土部からなる。全体的に「粘土混じり岩片状」を呈する。色調は明褐灰色(7.5YR7/2)。厚さ40~90mm。</p> <p>52.80~52.81m : Hc-2 14° で上端は波打って、下端は直線的に連続。φ1~2mm石英粒、φ2~3mm粘土化岩片を10~20%含む軟質粘土(ガウジ)。色調は灰白色(7.5YR8/2)。厚さ7~10mm。</p> <p>52.80~53.17m : D</p>
					にぶい 橙	CL'	100	6	0	0	0	
					灰褐		100	5	0	0	0	
						D'	100	2	0	0	0	

柱状図(53.00m~60.00m)

標尺 m	標高 m	深度 m	柱状 図	岩種 区分	色調	岩級 区分	コア 採取 率 (%)	最大 コア 長 (cm)	R Q D (%)	コア採取率 (%) 最大コア長 (cm) R Q D 0 20 40 60 80 100	記事
					灰褐		100	4	0		●53.17~53.22m: 破砕部(主せん断面53.17m)
						CL'	100	3	0		53.17m: Hc-2 29°で上下端とも直線的に連続。φ1~2mm 石英粒を10%程度含む軟弱粘土(ガウジ)。 色調は灰褐色(7.5YR6/2)。厚さ2mm。
						CL'	100	7	0		53.17~53.22m: HJ 上端29°、下端27°でいずれも直線的に連 続。φ5mm前後の粘土化岩片と岩片間の粘 土~砂状部からなり全体に「粘土混じり岩 片状」「粘土質岩片状」を呈する。上端 側と下端側はマンガン鉱染部を伴ない黒褐 色化する。色調は明褐色(7.5YR7/1)。厚 さ4mm。
						CL'	100	5	0		53.22~53.45m: CL 20~30°の直線的な割れ目が多い。
						CL'	100	6	0		53.45~53.54m: D 締った砂状を呈する。岩組織と一部の割れ 目は残留。
						CL'	100	5	0		53.54~56.66m: CL 53.87~54.10m: 石英が多く晶出しφ10~2mm 斑点状~幅5~15mm・45~65°の脈状で分布 する。
					にぶい 褐	D'	100	2	0		53.87~54.00m: 珪質でレンズ状の石英も分 布する。
					にぶい 橙	CL					54.00~54.60m: 石英脈ないし割れ目ぞいに 砂状化し、全体がやや脆くなる。また同区間 ではマンガン鉱染も伴ない黒褐色を帯びる。 55.25m: 55°のシャープで直線的な割れ目を 境とし55.25~56.66mは硬さ「C」で硬質とな る。 ただし、割れ目ぞいの一部では風化で砂状 化を伴う。粘土は殆んどはさまない。 56.43~56.47m: 35~40°割れ目ぞいに軟化 し、硬さ「D」を呈する。 56.66~56.84m: D 風化で締った砂状化呈する。φ10~2mmの 硬さ「D」の岩片が礫状に残留する。 56.84~58.77m: CL 56.84~57.90m: 硬さ「D」岩片主体で、一 部に硬さ「E」が残留する。 57.30m以浅では、割れ目ぞいに風化・砂状 化が進む。 57.75~57.90m: コアチューブ引上時に礫状 コア化したものと推定される。 57.90~58.34m: 硬さ「C」岩片主体。 2ヶ所に幅1~2mm石英脈が密着して分布。 各割れ目ぞいに軽微なマンガン鉱染を受ける 。
											58.28m: 割れ目交差部周辺で砂状化。 58.34~58.77m: 硬さ「D」岩片主体。 一部の割れ目ぞいで砂状化が進み、割れ目 が消滅しかかっているものもある。 58.77~59.82m: D 風化で著しく軟化し締った砂状化部が主体 。 岩組織や割れ目は残留しており、一部では 砂や粘土脈をはさんでいる。 59.18m: 20°、厚さ3mmの軟質な灰白色粘土 はさまむ。 59.28~59.48m: 割れ目は消滅する。 59.60~59.65m: 3本のほぼ平行な割れ目が55 °前後で分布、砂や粘土薄層(厚0.5~1mm)は さまむ。 ●59.82~59.85m: 破砕部(主せん断面59.85m) 59.82~59.85m: HJ 上端22°一部不明瞭で波打って、下端28° で直線的に連続。 φ2~3mm石英粒、φ5~1mm粘土化岩片と 岩片間は粘土化した「粘土混じり岩片状」 を呈する。色調はにぶい褐(7.5YR6/3)。厚 さ30mm。 59.85m: Hc-1 28°で上下端とも直線的に連続。φ1~2mm 石英粒をわずかに(5%以下)含む軟弱な粘 土(ガウジ)。色調は灰褐(7.5YR6/2)~灰白 色(7.5YR8/1)で縞状模様を呈する。厚さ5 ~1mm。 59.85~60.99m: CL 60.54m以浅は割れ目ぞいに風化が進み、硬 さ「E」も含んでいる。 60.54m以深は硬質となり硬さ「C」が主体 である。 前者では、割れ目ぞいにマンガン鉱染を伴 う。

柱状図(60.00m~69.00m)

標尺 m	標高 m	深度 m	柱状 図	岩種 区分	色 調	岩級 区分	コア 採取 率 (%)	最大 コア 長 (cm)	R Q D (%)	コア採取率 (%) 最大コア 長 (cm)	R Q D (%)	記事			
													0	20	40
			+	花崗斑岩	にぶい橙	CL'	100	8	0			<p>60.99~61.38m: CH 堅硬。割れ目に挟在物はさまない。</p> <p>61.38~63.61m: CM 上端部の61.38~61.42m間と62.82m以深は、割れ目ぞいに風化が進み砂状化する部分があるが、その他区間では割れ目に挟在物は殆んど分布しない。</p> <p>62.53~62.57m: 互いに直交する割れ目交差部で一部細片化するが、砂状化や粘土化による劣化は伴なわない。</p> <p>62.82~63.61m: 岩片は硬いが(硬さ「B」)、割れ目ぞいに幅2~1mm程度砂状~細かく片状化する。</p> <p>粘土化部や粘土脈ははさまない。</p> <p>63.61~64.00m: D 割れ目ぞいの風化が著しく進み砂状化する。φ10~6mm硬さ「D」「C」岩片が残留し、「砂礫状」呈する。</p> <p>一部で割れ目が残留している。</p> <p>63.90~63.94m: 60° 幅1~3mm石英脈が2条分布。</p> <p>64.00~64.33m: CL 50~60° と70° 割れ目がほぼ直交し、交差部ではφ10mm程度に細かく岩片化する部分もある。</p> <p>64.33~66.07m: CM 割れ目の多くは割れ目ぞいに薄く砂状化する。</p> <p>65.22~65.30m: 40° と70° 割れ目が交差し、幅10~20mmと風化砂状部が拡大している。またわずかながら白色粘土や微細な黄鉄鉱、セリサイトも伴っている。</p> <p>65.90m: φ20mmと大型な石英斑晶が晶出。</p> <p>66.07~66.62m: CL 風化したゆるぎ割れ目や密着度の低い割れ目が多く、ハンマーの軽打で細片化する。</p> <p>66.62~67.14m: D φ5~2mm硬質岩片と風化による砂状部からなり、砂礫状を呈する。</p> <p>66.85m以深では岩組織や割れ目の一部も残留する。また、部分的に灰白~淡黄色粘土も点在する。</p> <p>67.14~67.27m: CL 50° 割れ目ぞいに軟化が進む。</p> <p>67.27~67.80m: CM 割れ目ぞいに砂状化するものが多い。</p> <p>67.40~67.47m: φ5~1mmに砕け角礫状化する。</p> <p>67.80~67.93m: D 50~60° 割れ目ぞいに砂状化し、φ1mm硬質岩片を含む砂礫状呈する。</p> <p>67.93~68.15m: CL 45° 割れ目ぞいに薄い砂状化部をささむ。</p> <p>68.15~68.60m: CM 割れ目に挟在物は分布しない。</p> <p>68.43~68.49m: φ5~20mm礫状~片状に砕けているが砂や粘土ははさまない。</p> <p>68.60~69.05m: D 軟化著しい硬さ「E」であるが、岩組織や割れ目は明瞭に残留している。</p> <p>上端の68.60~68.65mは砂状化を呈するが、これはコア引上げ時で生じた可能性が高い。</p>			
									CH'	100	13		13		
									CM'	100	10		10		
										100	10		10		
									D'	100	10		10		
									CL'	100	16		16		
									CM'	100	10		10		
										100	9		0		
									D'	100	9		0		
									CM'	100	9		0		
									D'	100	12		12		

柱状図(69.00m~75.00m)

標尺 m	標高 m	深度 m	柱状 図	岩種 区分	色調	岩級 区分	コア 採取率 (%)	最大 コア長 (cm)	R Q D (%)	コア採取率 (%) 最大コア長 (cm) R Q D	記事
	70			花崗斑岩	にぶい橙	CL	100	3	0		69.05~69.56m: CL 30~50° 割れ目主体。密着度の低い中庸割れ目も多く含む。 割れ目ぞいに厚さ1mm程度と薄く砂状化することが多い。
					灰褐	CL	100	10	10		69.07m: 厚さ2~3mmマンガンが脈状に分布。 69.56~69.70m: D 少量の白色粘土細脈を伴う。
					にぶい橙	CL	100	9	0		●69.70~69.73m: 破砕部(主せん断面69.70m)
					灰褐	CL	100	6	0		69.70m: Hc-1 55°で上下端とも直線的に連続。石英粒。岩片は殆んど含まない軟弱粘土(ガウジ)。色調はにぶい黄橙(10YR5/3)。厚さ1mm。
					灰褐	CL	100	8	0		69.70~69.73m: Hj 上端55°で、下端57°でいずれも直線的に連続。φ3~10mm硬さE(粘土化)。Dの岩片で岩片間の一部は粘土化する。 全体として「粘土混じり岩片状」呈する。色調は灰黄色(2.5Y7/2)。厚さ1mm。
					にぶい黄橙	CM	100	6	0		69.73~74.10m: CL 硬さ「D」と硬さ「C」の区間が交互に出現する。 硬さ「D」では割れ目に砂などの挟在物が分布するが、硬さ「C」区間では挟在物は殆んど分布しない。
					灰褐	D					70.06~70.09m: 45° 割れ目ぞいに風化で砂状化する。 70.43~71.27m: 硬さ「C」のうち、70.49~70.59mではφ5mmの白濁化した長石が多い。70.59m以深では少ない。 71.27~71.60m: 45~60° 幅1mm以下の軟弱な灰白色粘土が脈状に分布する。その一部は風化で褐色化する。 71.37~71.50m: φ10mm前後の大型の石英斑晶が点在。 岩片も硬さ「C」と周囲より硬質化している。
											71.88m: 0~10° 幅1mm石英脈が密着して連続。 72.10~72.74m: 硬さ「C」区間では割れ目挟在物は殆んど分布しない。長石の一部は白濁化する。 72.74~74.10m: 硬さ「D」主体だが、硬さ「C」の岩片も含んでいる。 割れ目ぞいに風化、砂状化することがある。
											73.35~73.38m: 厚さ25~40mmで締った砂状化を呈する。 岩組織は残留している。 73.65~73.76m: 30°と60°の割れ目が交差しφ10~50mmの岩片状コアを呈する。 74.10~74.36m: CM ●74.36~74.50m: 破砕部(主せん断面74.40m)
											74.36~74.40m: Hb 上端27°で直線的に、下端30°で不明瞭に湾曲して連続。φ2~3mm石英粒。粘土化したφ5mm岩片を約10%含む軟弱な「礫質粘土状」呈する。色調はにぶい黄橙色(10YR7/2)。厚さ0~30mm。
											74.40~74.41m: Hc-1 30°で上下端とも湾曲して連続。φ1mm石英粒をわずかに(5%以下)含む軟弱粘土(ガウジ)。色調は灰褐色(7.5YR5/2)。厚さ7mm。
											74.41~74.50m: Hb 上端30°で湾曲して連続。下端は74.50m以深が掘削時にバラけたコアのため位置不明。 φ2~3mm石英粒。粘土化したφ5~30mm岩片を10~20%含む軟弱な「礫質粘土状」呈する。色調はにぶい黄橙色(10YR7/2)。厚さ75mm以上。
											74.50~75.57m: D 74.50~75.00m: 礫状コアで採取され、割れ目状況など不明。

柱状図(75.00m~80.00m)

標尺 m	標高 m	深度 m	柱状 図	岩種 区分	色調	岩級 区分	コア 採取率 (%)	最大 コア長 (cm)	R Q D (%)	コア採取率 (%) 最大コア長 (cm) R Q D [%]	記 事		
				花崗斑岩	灰褐色	D'	100	3	0		75.00~75.57m: 岩組織は残留しているが、多くの割れ目は消滅している。 ●75.57~76.00m: 破砕部(主せん断面75.73m)		
													75.57~75.71m: Hj 上端は不明瞭ながら25°で、下端68°で波打って連続。φ5~2mm岩片からなり、岩片間は粘土化~砂状化する「粘土混じり岩片状」呈する。 色調は灰黄褐色(10YR6/2)。厚さ90~120mm
													75.71~75.73m: Hc-2 68°で上端は波打って、下端は直線的に連続。φ1~3mm石英粒とφ3mm岩片を5~10%含む軟質粘土(ガウジ)。色調は灰褐色(5YR6/2)。厚さ10~12mm
													75.73~75.93m: Hb 上端68°で直線的。下端64°で波打って連続。φ2~4mm石英粒、φ5~10mm岩片を10~15%含む半固結状の「礫質粘土状」呈する。石英粒は主せん断面方向に配列している。 色調は明褐色(5YR7/2)~灰褐色(5YR5/2)。厚さ55mm
													75.93~76.00m: Hj 上端は64°で波打って、下端は不明瞭(30°?)に連続。 φ5~10mm岩片と岩片間の粘土からなり「粘土混じり~粘土質岩片状」を呈する。色調は明褐色(7.5YR7/2)。厚さ60mm以上
													76.00~76.91m: D 硬さ「C」のφ5~20mm岩片と締った砂状からなり、全体的には締った砂礫状を呈する。 76.54~76.70m: 硬さ「C」の岩片部 76.70~76.91m: 岩片はわずかになり、代って幅1~2mm軟質白色粘土脈が多くなる。 76.91~77.19m: CL 割れ目ぞいに砂状化するものもある。
													77.19~78.00m: D 著しく軟化するが、岩組織と割れ目の一部は残留する。 77.63~77.80m: ロッド引上げ時にコアが乱れ、礫状を呈している。 78.00~78.43m: CL 60~80°割れ目主体、これに斜~直交する30°も混える。 割れ目の一部は厚さ2~3mmの砂をはさむ。 78.43~78.72m: D 風化・砂状化が拡大し、締った砂礫状を呈する。 78.60m周辺はマンガン銹染を受ける。 ●78.72~78.87m: 破砕部(主せん断面78.87m)
										78.72~78.87m: Hj 上端は31°、幅5mm褐色粘土脈で波打って、下端は直線的に連続。φ3mm程度の岩片からなり、岩片間の一部に幅1mmの軟弱白色粘土が脈状~斑点状に分布。全体として「粘土混じり岩片状」呈する。 色調はにぶい黄褐色(10YR7/2)。厚さ130~140mm			
										78.87m: Hc-1 60°で上下端とも直線的に連続。φ1mm石英粒をわずかに(5%以下)含む軟弱粘土(ガウジ)。色調は灰褐色(7.5YR4/2)。厚さ1~2mm			
										78.87~82.51m: CL 78.87~79.27m: 硬さ「D」主体。長石の白濁化が多い。 79.02m: 55°厚さ3mm褐色砂~φ2mm細片化岩片はさむ。 79.27~80.66m: 硬さ「C」主体。 上端側の79.27~79.59mは硬さ「B」と坚硬			
										79.69~79.95m: 褐色化するが珪化のため硬さ「C」と硬質。 79.96~80.23m: 45°前後の割れ目が多い。これらの割れ目には褐色粘土やマンガンを含み厚さ0.5~3mmではさんでいる。			

柱状図(80.00m~89.00m)

標尺 m	標高 m	深度 m	柱状 図	岩種 区分	色 調	岩級 区分	コア 採取 率 (%)	最大 コア 長 (cm)	R Q D (%)	コア採取率 (%) 最大コア長 (cm)	記 事
				花崗斑岩		CL'	100	6	0		<p>80.30~80.40m: 割れ目ぞいに砂状化が進む。 80.30~80.35m: コアチューブ引上げ時に発生した角礫状コア。 80.66~81.87m: 硬さ「D」中に硬さ「C」のφ2~3cm岩片が断片的に分布。 80°前後の高角度割れ目が多い。 81.17m: 55°割れ目に厚さ10~15mmで砂と褐色粘土はさむ。 挟在物中と割れ目周辺にφ0.5mm以下の微細な黄鉄鉱伴う。 81.82~81.87m: 風化で締った砂礫状呈する。 81.87~82.51m: 割れ目ぞいに砂状化する部分も含まれる。 82.51~82.62m: D 風化で砂状化する。φ0.5~1cmの花崗斑岩岩片が礫状に分布する。 82.62~82.94m: CL 割れ目沿いに砂状化進む。一部で幅1~2mm白色粘土脈はさむ。 82.94~84.09m: CM ゆ着割れ目や密着度の低い割れ目を多く含んでいる。 割れ目の挟在物は少ない。 83.30~83.47m: 長石の一部が白濁化する。 84.07~84.09m: 上端45°, 下端65°割れ目で囲まれ、砂状化~細片状化する。 厚さ1~10mmで厚さ3mmレンズ状の淡黄色軟質粘土とマンガン鉱染伴う。 84.09~84.92m: GH 60~80°の高角度の「ゆ着割れ目」を伴うが、密着度は高くハンマーの打撃でも分離しない。 84.50m: 36°割れ目の一部に厚さ2~3mmのマンガンを伴う。 84.82~84.92m: 割れ目交差部で一部片状コア、岩片自身は堅硬で劣化や挟在物は伴わない。 84.92~85.38m: CL 下位破砕部の主せん断面と同方向の50~60°割れ目やゆ着割れ目が多い。 85.01m: 幅1mm以下 22°石英脈が50°割れ目と斜交して連続。 ●85.38~85.41m: 破砕部(主せん断面85.41m) 85.38~85.41m: HJ 上端45~50°で1ヶ所屈曲するが、これ以外は直線的に、下端は47°で直線的に連続。 φ2~3mm石英粒とφ3~5mm粘土化岩片と基質の砂状~粘土状部からなる軟質な「粘土・砂混じり岩片状」呈する。 色調はにぶい黄褐色(10YR7/2)。厚さ20~25mm。上端の割れ目ぞいにマンガン鉱染受け黒褐色化する。 85.41m: Hc-1 47°で上下端とも直線的に連続。φ1mm石英粒をこくわず(5%以下)含む軟弱な粘土(ガウジ)。色調は灰黄褐色(10YR5/2)。厚さ2mm。 85.41~85.92m: CL 上位の破砕部の主せん断面と同方向の40~60°割れ目主体、砂や粘土をはさむ。 85.92~86.43m: D 割れ目ぞいに砂状化が拡大。φ10~30mm硬さ「C」岩片を多量に混えた砂礫状を呈する。 86.43~86.86m: CM 堅硬であるが、割れ目が多い。挟在物は殆んど分布しない。 86.86~87.20m: CL 50~60°割れ目ぞいを主体に軟化が進む。断片的に硬さ「C」岩片も礫状に残留している。 87.20~87.51m: D 風化で締った礫質砂状を呈する。 幅1~3mmの橙色粘土も脈状に分布する。 87.51~93.53m: CL 割れ目ぞいに風化が進んでいる。 全体に硬さ「C」の岩片が主体である。 割れ目には風化起源の締った砂、粘土脈、マンガンをはさむことが多い。 88.51~88.69m: 40~50°の割れ目は1~2cm間隔で平行に分布。それと60°斜交~直交する割れ目や幅1mm石英脈も分布。</p>

柱状図(89.00m~107.00m)

標尺 m	標高 m	深度 m	柱状 図	岩種 区分	色調	岩級 区分	コア 採取 率 (%)	最大 コア 長 (cm)	R Q D (%)	コア採取率 (%)			記 事
										最大 コア 長 (cm)	R Q D (%)	R Q D (%)	
90			+	花崗斑岩	灰褐	CL'	100	6	0	●	0	0	89.25~89.56m: 上下に比べやや割れ目が少なくなる。 89.56~89.86m: 割れ目ぞいに風化が進み全体脆くなる(硬さD)。
							100	7	0				
							100	6	0				
						明褐灰	D'	100	4	0	●	0	91.16~91.25m: 低角と高角割れ目が交差し、径1mm前後の細岩片状に砕けている。 下端にマンガン鉱染伴う。 92.32m: 53° 割れ目ぞいにφ0.2mm前後の雲母(セリサイト?)が晶出している。
								100	5	0			
						暗緑灰	CL'	100	6	0	●	0	93.53~94.00m: D 割れ目ぞいに風化による砂状化が拡大し、一部で砂礫状を呈する。 94.00~95.85m: CL 94.07~94.88m: 上下端65° で貫入するアブライト。 上下端とも割れ目化し、破砕や変質粘土は伴わない。 貫入面(65°)に60° 斜交~直交する割れ目が発達するが密着しているものが多い。一部で流理構造(65~60°)をもつ。 直上と直下の花崗斑岩に破砕や変質は与えていない。
				100	6			0					
				明褐灰	CM'	100	10	10	●	10	95.22~95.25m: 割れ目ぞいに砂状化、マンガン伴う。 95.30~95.45m: 緑色おびる。 95.85~96.58m: CM 硬さ「B」と硬いが、密着度の低い割れ目が多く、一部で細片化する。 96.00~96.10m: 割れ目ぞいに幅1~2mm砂状化し、灰白色粘土脈もはさまむ。 96.58~97.57m: CL 一部に硬さ「B」の硬質部も混入。 φ2~3mm暗緑色鉱物(緑泥石?)が晶出・点在する。		
						100	6	0					
				灰褐	D'	100	6	0	●	0	97.00~97.12m: 割れ目ぞいに砂状化し、全体が脆くなる。 97.57~97.88m: D 硬さ「C」の岩片も残留するが、全体は締った土砂状。 下端付近の97.85mに40° 幅1~5mm赤褐色鉱物脈が分布。		
						100	13	26					
				灰褐	CM'	100	12	12	●	12	97.88~100.51m: CM 硬質で風化と変質も弱くなる。 密着度が低い割れ目やゆる割れ目が多く10cm以上の柱状コアはごくわずか。 割れ目挟在物は殆んど認められない。 99.03m: 35° 割れ目に微細な黄鉄鉱が晶出している。 100.00~100.51m: ゆる割れ目や密着度の低い割れ目が多く細片化し易い。 100.51~100.72m: CL 風化で一部割れ目ぞいに砂状化しマンガン鉱染も受ける。 100.72~102.35m: CM 割れ目には挟在物は殆んど認められない。 一部でゆる割れ目や密着度が低い割れ目が分布し、ハンマーの強打で細片化し易い。全体にφ2~3mmの暗緑色鉱物(緑泥石?)が点在する。 101.57~101.58mと102.00~102.05m間は割れ目ぞいに片状~礫状に砕けているが、粘土や軟化部は分布しない。 102.05~102.35m: 高角度で密着度の低い割れ目やゆる割れ目が多い。 102.35~107.40m: CH 上下に比べ割れ目が少なくなる。 部分的に割れ目ぞいに薄く砂状化したり粘土脈やマンガンをはさまむが全体では挟在物は殆んど含まない。 φ2~5mmの暗緑色鉱物(緑泥石)が点在する。		
						100	6	0					
				褐灰	CL'	100	5	0	●	0	103.52~103.54m: 割れ目ぞいに薄く砂状化する。 105.23~105.25m: 65° 割れ目は幅1~3mmの緑色粘土脈はさまむ。破砕は伴わない。 106.33m: 60° 割れ目ぞい幅5mmが細片化する。 粘土は伴わない。		
100	15	29											
灰褐	CH'	100	14	37	●	37	107.40m: CH 上下に比べ割れ目が少なくなる。 部分的に割れ目ぞいに薄く砂状化したり粘土脈やマンガンをはさまむが全体では挟在物は殆んど含まない。 φ2~5mmの暗緑色鉱物(緑泥石)が点在する。						
		100	14	35									
				花崗斑岩	灰褐	CH'	100	13	23	●	23	107.40m: CH 上下に比べ割れ目が少なくなる。 部分的に割れ目ぞいに薄く砂状化したり粘土脈やマンガンをはさまむが全体では挟在物は殆んど含まない。 φ2~5mmの暗緑色鉱物(緑泥石)が点在する。	
							100	14	26				

柱状図(107.00m~116.00m)

標尺 m	標高 m	深度 m	柱状 図	岩種 区分	色 調	岩級 区分	コア 採取 率 (%)	最大 コア 長 (cm)	R Q D (%)	コア採取率 (%) 最大コア長 (cm)	R Q D (%)	記事	
													0 20 40 60 80 100
110			+	花崗斑岩		灰褐	CH'	100	11	22		<p>107.40~107.83m: CM 107.52~107.55m: 各々40°, 53° 割れ目に 囲まれ細岩片化~砂状化する。粘土は伴な わない。 107.83~108.24m: CL 風化で割れ目ぞいに軟化が進む。 108.20m: 50° 割れ目と周辺の割れ目はマン ガン鉱染受ける。 108.24~109.98m: CM 硬質であるがゆ着割れ目や密着度が低い割 れ目が多くハンマーの強打で細片化する。 割れ目には挟在物は殆んど分布しない。 109.00~109.14mと109.41~109.60m間は割 れ目が密集し、長さ10~30mm主体の硬質岩 片化している。 109.98~110.43m: CH ゆ着割れ目や密着度の低い割れ目を含まな い棒状コアからなる。 110.43~110.74m: CL 岩片は硬いが、割れ目の一部で砂状化する 。 110.74~112.83m: CM 30~60° とこれに直交~斜交する50~70° 割れ目が主体。 割れ目交差部の一部では岩状化するが劣化 は伴わない。 112.04m以浅は堅硬で割れ目挟在物は殆ん ど分布しない。 111.13~111.37mは暗緑色化、111.37~111 .54mはふい橙色を割れ目方向と調和的に 50~60° で示す。 前者は緑泥石化が進んだ区間、後者はカリ 長石が多く晶出する区間である。 両色調境界部はよく密着し、破碎や変質は 伴わない。 112.04m以深は硬さ「C」主体で、一部の割 れ目ぞいは風化で薄く砂状化する。粘土化 や粘土脈は分布しない。全体にマンガン鉱 染を軽微に受け、割れ目の面ぞいは薄く黒 褐色化する。 112.83~113.51m: CL 割れ目ぞいに砂状化が進むことが多い。 113.03~113.31m: 消滅したり、消滅しかか っている割れ目も分布する。 113.10~113.13m: コアチューブ引上げ時に 乱され、礫状コア化している。 ●113.51~113.60m: 破砕部(主せん断面113. 56m) 113.51~113.56m: Hj 上端55° で、下端66° でいずれも波打って 連続。φ5~10mm硬さDの岩片で、岩片間は 薄く粘土化~砂状化し、「粘土混じり岩片 状」呈する。 色調は灰褐色(7.5YR6/2)。厚さ20~35mm。 113.56m: Hc-1 66° で上下端とも小さく波打って連続。途 中で厚さ1mm粘土に分岐。 φ1mm石英粒わずかに含む軟質粘土(ガウジ)。 色調は灰白色(7.5YR8/2)。厚さ1~2mm。 113.56~113.60m: Hj 上端66° で小さく波打ち、下端63°、幅(m 以下)のふい橙色(7.5YR7/4)の直線的な 軟弱粘土脈として連続。φ5~10mm岩片と 岩片間の粘土~砂状部からなり「粘土混じ り岩片状」呈する。色調は灰褐色(7.5YR6/ 2)。厚さ15~20mm。 113.60~114.00m: D 硬さ「C」「D」岩片含むが全体として軟化 著しい。 114.00~114.75m: CL 高角と低角度割れ目が交差し概ね30mm以下 に岩片化。 割れ目の一部は砂状化~マンガン鉱染受け る。 114.75~115.52m: D 風化著しく大半が砂状化し、礫状を呈す る。 115.28m以深では割れ目の一部が残留して いる。 115.52~118.26m: CL 60~70° の高角割れ目と30° 前後の低角度 割れ目が交差する。 割れ目ぞいの多くは砂状化するが粘土は分 布しない。</p>	
							CM'	100	9	0			
							CL'	100	9	0			
							CM'	100	9	0			
							褐灰	CH'	100	20			33
							灰褐	CL'	100	10			20
							暗緑灰にふい橙	CM'	100	10			20
							灰褐にふい橙	CL'	100	7			0
							明褐灰	CL'	100	4			0
							灰褐	D'	100	4			0
							明褐灰	CL'	100	5			0
								D'	100	3			0
								CL'	100	3			0

柱状図(116.00m~128.00m)

標尺 m	標高 m	深度 m	柱状 図	岩種 区分	色調	岩級 区分	コア 採取率 (%)	最大 コア長 (cm)	R Q D (%)	コア採取率 (%) 最大コア長 (cm)	R Q D (%)	記事			
													0 20 40 60 80 100		
120			+	花崗斑岩	明褐灰	CL'	100	5	0	●	0 20 40 60 80 100	0 20 40 60 80 100	116.87~118.26m: 割れ目ぞいに砂状化が進んでいる。 岩片はφ10~30mm硬さ「C」主体。 116.87~117.00m: φ10mm前後の礫状コア。これは掘削時に割れ目ぞいの砂状部分が流失したためと推定される。 割れ目は60~70°とこれにほぼ直交する40°前後が多く、交差部ではφ5mm前後に細片化するものもある。 60~70°割れ目は40°割れ目を切っている部分がある。 118.10~118.63m: 割れ目の一部は軽微なマンガン鉱染を受ける。 118.26m以深では上位よりも更に割れ目ぞいの砂状化が進んでいる。 一部で厚1~2mmの白色粘土脈をはさむ。 118.63~118.94m: D 砂状化が著しくなり、締った砂礫状を呈するものが主だが、硬さ「C」岩片のみからなる部分も残留。 ●118.94~119.12m: 破砕部(主せん断面119.10m) 118.94~119.10m: Hj 上端32°, 下端60°でいずれも直線的に連続。主せん断面に平行な割れ目とこれに60°前後で斜交する割れ目が多く、φ5~10mmに細片化した岩片と岩片間の一部に砂状化した「砂混じり岩片状」呈する。 色調はにぶい黄褐(10YR5/4)。厚さ160mm(コア長)。 119.10~119.12m: Ho-2 60°で上端直線的に、下端は波打って連続。φ1~2mm石英粒、φ3~10mm粘土化~硬さ「D」岩片を10~20%含む軟弱粘土(ガウジ)。 色調は浅黄(5Y8/3)。厚さ13~15mm。 粘土中には、表面がマンガン土化したφ1mmの石英粒が多い。また下端~上端へ斜交する幅2mmの軟弱な黒色粘土脈が分布。 119.12~119.30m: GL 60~70°高角度割れ目とこれに斜交する40°割れ目が多く細片化するが、挟在物は殆んど分布しない。 119.30~120.78m: CM 一部で密着度の低い割れ目やゆる割れ目が多く、ハンマーの打撃で分離・細片化するが、割れ目の面はほぼ新鮮で未風化。 120.78~122.00m: GH 122.00~125.06m: CM 一部で密着度の低い割れ目やゆる割れ目が多い。 すでに開口割れ目化するものも多い。 割れ目の面はほぼ新鮮で未風化。 123.38m: 割れ目交差部で幅2~3mm細片状化するが、風化砂状部や粘土化部はさまない。 124.54m: 55°割れ目面に厚0.5mm軟弱灰緑色粘土がフィルム状に付着する。 125.06~125.28m: CL ゆる割れ目などから分離・細片化している。砂や粘土はさまない。 125.28~127.68m: CM 開口割れ目と平行方向のゆる割れ目や密着度の低い割れ目を含んでいる。ハンマーの強打で一部は分離・細片化する。 ごく一部(下記127.16~127.25m間)でごく薄く風化する以外はほぼ新鮮、未風化。 127.16~127.25m: φ10mm前後で角礫化している。下端の45°割れ目面には幅10mmがφ2~5mmで細礫状化し、風化で淡褐色化する。 127.68~128.08m: GL 厚さ5~10mm程度の片状コア主体で挟在物は下端部の128.05~128.08mがφ3~5mm硬質岩片を含む「礫質砂」状を呈する以外、砂、粘土などはさまない。		
							にぶい褐	100	3					0	
							にぶい褐	100	2					0	
							にぶい黄褐	D'	100					4	0
							CL'								
							CM'	100	15					25	
							CH'	100	24					34	
							褐灰	CM'	100					5	0
									100					8	0
								CL'	100					6	0
								CL'	100					8	0
								CM'	100					10	10
							にぶい褐	CL'	100					9	0